



プレーパーク レポート

第8号

2022年11月
小鹿野町



段ボールで作った
迷路だよ！

外遊び日和の一日を楽しみました！

10月末、木々の葉も色づきはじめていましたが、気温が20℃越えの暖かい一日。お天気で外遊びにはもってこいの陽気でした。

大量の段ボールを前にすぐに遊びがはじまり、個々にお家のようなものがまずはできてきました。しかし、その内に隣のお家同士をつなげて巨大な迷路に！

子ども同士で協力しながら細かな相談なくどんどん広がる迷路。子どもたちの親御さんたちがゆるやかに子どもの発想をサポートしている姿がとても良かったです。

その後も、引き車、坂滑り、積木に武器とカタチを変えて遊びは次々展開していました。段ボールは素材として遊びの幅が広く重宝します。毎回ある程度の量は用意してありますが、みなさんからの持ち寄りも大歓迎です。



プレーリーダー養成講座

初回のテーマは「子どもと遊び」でした。子どもは遊ぶことによって育つための発達欲求を満たし、自分自身が何者であるかを形作る。そして、その後の人生を手作りできるようになる。ということが講座の中で話されていました。受講者からは「子育てに役立った」「大人の押し付けにならぬようにしたい」などの感想が聞かれました。



遊びの様子

後半は段ボールを斜面に敷いて坂滑り。どうやったらうまくスピードが出て下まで滑り降りることができるのかを何度も繰り返す内に身体で覚えて上達する子どもたちの姿が印象的でした。

上達することを大人も強制せず、コツも教えず、ニコニコ見守る。たったそれだけのことなのですが、子どもは大人のゆるやかな見守りさえあれば遊びを手作りして遊び込むことができるのだと思います。

また、おイモを持参した親子がいたので子どもたちと火おこしをしました。



小枝拾いに始まり、新聞を丸めて着火の準備。集めた枝をちょうど良い長さに折る子、薪をくべる子、ウチワで扇ぐ子など、自分の関心があることを担いながらも真剣に火がおきるように関わる子ども達の姿がありました。

誰の指示もなく、自分たちで協力しながら、スムーズではなくとも火がつくように協力する子ども達。

子どもたちの活躍もあり、無事に火もおきてイモも焼けました。みなさんもぜひ開催時はイモなど持参して火おこしからチャレンジしてみてください。

案外、大人がやっても苦戦するかもしれませんよ。



広場のケヤキにブランコをかけることになり、細いロープに重しをつけて樹上に放り投げる工程を子ども達が遊びで引き受けてくれました。

重しはガムテープ。カウボーイのようにぐるんぐると数回振り回した後に放り投げる子、ガムテープを直接持ってボール投げのようにする子、試行錯誤で交代しながら4人ぐらいの子どもたちが代わるがわるで挑戦していました。

惜しいところで木に当たって跳ね返されること数十回。

ようやく成功した瞬間には思わずまわりで見ていた大人も大歓声。成功した子どももにんまり得意顔でした。完成したブランコは大きく揺れて気持ち良かったですね。



段ボール遊びの最中に持参の工具やテープで器用に何かをつくるお父さん。我が子だけでなく、まわりにいた子どもたちも興味深そうに作業の様子を観察していました。大人が本気で遊ぶ姿って子どもたちが憧れることも多々あります。

できあがったのは段ボールでできているとは思えない出来栄の「金槌」や「ノコギリ」などの工具でした。つくってもらった子どもはとても嬉しそうに手にして遊んでいました。

